

令和5年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
第2回調整会議

次第

日時:令和5年11月28日(火)18:30~20:00

場所:北九州市庁舎3階 大集会室

- 1 開会
- 2 保健福祉局長挨拶
- 3 構成員紹介
- 4 議事
次期高齢者プランの素案について
- 5 閉会

北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
調整会議構成員名簿

(五十音順・敬称略)

所 属	氏名	
公益社団法人北九州市医師会 副会長	安藤 文彦	介護予防・活躍推進に関する会議 副代表 地域包括支援に関する会議 副代表
西南女学院大学 教授（副学長）	伊藤 直子	介護予防・活躍推進に関する会議 代表
一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会 会長	今村 浩司	認知症施策推進に関する会議 代表
公益社団法人北九州高齢者福祉事業協会 会長	木戸 邦夫	介護保険に関する会議 副代表
福岡教育大学教育学部 教授	中村 貴志	地域包括支援に関する会議 代表
公益社団法人北九州市医師会 専務理事	長森 健	認知症施策推進に関する会議 副代表
九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 教授	橋元 隆	介護保険に関する会議 代表

任期：令和5年5月1日～令和8年3月31日

北九州市の現状と課題 次期高齢者プランの目指すビジョンとその達成に向けた計画の骨子(案) 資料1

人口構造等

- 高齢化の進展と生産年齢人口の減少
- 85歳以上人口の増加
- 高齢世帯や一人暮らしの増加

介護給付費

- 平均寿命と健康寿命の差
- 介護保険認定率、給付額の増加

- 認知症高齢者数の増加
- 医療費の増加

地域の状況

- 自治会加入率の減少
- 地縁団体の高齢化や担い手の減少

調査結果

【実態調査】 ※一般高齢者

- ▶ 約8割が概ね健康→
- ▶ 高齢者の認識年齢上昇(75歳以上:30.7%→)
- ▶ コロナの影響による健康づくり・介護予防の通いの場への参加減(47%)
- ▶ 地域との関わり(ほとんど付き合っていない:12.5%↓)、地域活動(参加率20.8%↓)や就労(20.9%↓)の減
- ▶ スマホ利用率 42.1%↑

- ▶ 認知症への不安(家族への負担53.9%↑、自宅での生活継続42.2%→)
- ▶ 在宅介護者の負担感(40.3%→)
- ▶ 高齢者の権利侵害への不安増(42.3%↓)
- ▶ 制度や仕組みへの一定の評価(介護保険制度(93.6%↑)、地域包括支援センター認知度(43.6%↑))

【ニーズ調査】 ※一般高齢者

- ▶ 認知機能の低下(物忘れ)リスク(49.2%↑)
- ▶ 口腔・咀嚼機能の低下リスク(45.2%↓)
- ▶ 転倒リスク(45.3%↑)
- ▶ 通いの場(参加率19.3%↓)や趣味・スポーツ、自治会活動等への参加減

主な課題

生涯現役で活躍

- ・年長者大学校終了者や文化・スポーツ活動等の参加者の地域活動・貢献と結び付ける仕組み
- ・コロナ禍の影響による、活動への参加減
- ・健康づくりや介護予防の取組みを通じた社会参加・生活習慣病の発症予防、重症化予防

つながり支えあう

- ・地域の人づきあいの希薄化、孤独・孤立の深刻化
- ・地域での互助の必要性の認識低下
- ・活動の担い手不足(就業年齢の延伸、共働き世帯増加による現役世代の活動者減少)、新たな人材の発掘・育成
- 【認知症支援】
- ・認知症の理解の増進
- ・早期発見・対応の仕組みづくり
- ・医療、ケア、介護サービス体制
- ・予防の取組み
- ・複雑な課題を抱えた家族介護者への支援のあり方
- ・介護者の相談窓口周知不足

安心して暮らせる

- ・地域包括支援センターの機能充実
- ・住みたい場所で暮らせる、サービスの提供体制の確保
- ・在宅生活が継続できるための医療と介護の連携強化
- ・入退院があっても切れ目のないケアが継続できるリハビリ等の仕組み
- ・適正な介護サービスの提供
- ・介護現場の人材確保、生産性向上、質の向上
- ・高齢者の尊厳の維持(権利擁護や早い時期からのACPや終活)
- ・虐待防止の観点からの、介護者への支援
- ・ニーズに対応した多様な住まいの提供や情報提供
- ・後期高齢者の増加を踏まえた移動支援策の充実

次期プランの目指すビジョン・計画の骨子

ビジョン

高齢者が健康で生涯現役を目指し、自分らしく安心して、人生100年時代を幸福に暮らすことができるまち



施策の柱と主な具体的取組み

1 目指そう 活力ある100年

～健康長寿～

- 人や社会とつながり続け、役割をもって活躍できる機会の創出
- 学びや活躍の場の推進と地域活動につなげる仕組み(年長者研修大学校や生涯現役夢塾等)
- 高齢者就業支援センター等を拠点とした就業支援強化(企業への啓発含む)
- 生涯を通じた健康づくり・介護予防
- 健康づくりや介護予防に関する知識等の普及啓発(講演会や講座等の実施)
- 健康づくり推進員・食生活改善推進員・介護予防普及員等健康づくり・介護予防活動を担う人材育成や活動支援
- 生活習慣病予防等の取組の推進(健診受診者に対する専門職のアウトリーチ支援)
- 歯科口腔保健の推進(歯科疾患の予防・重症化予防、口腔機能の維持・向上)

2 人情息づく支えあいのまち

～地域共生社会～

- 人のつながりが幸せや安心を生む支えあいの地域づくり
- 民生委員、福祉協力員等による見守り活動の充実
- いのちをつなぐネットワーク事業(地域福祉ネットワーク)の充実・強化
- 多様な主体による社会のつながりづくりや居場所づくりの支援
- 重層的支援体制整備事業の実施
- 認知症にやさしいまちづくり(北九州市認知症施策推進計画)
- 認知症サポーター養成講座
- 認知症にやさしいデザインの普及
- ものわすれ外来
- 本人交流会・ピアサポート活動支援
- 尊厳のある自分らしい暮らしを守る権利擁護の推進(北九州市成年後見利用促進計画)
- 成年後見制度中核機関を中心とした啓発・連携ネットワークの強化
- 虐待対応職員への研修強化
- 介護者(ケアラー)のサポート
- 必要な支援やサービスにつなげる相談体制の強化・充実
- 介護講座の開催
- 企業等を対象にした介護への理解促進

3 選べる自由が感じられる多彩なケア

～安全・安心・自己決定～

- 不安を安心へ
- 地域包括支援センターの相談体制充実
- 在宅医療(緩和ケア・看取り含む)の普及啓発、ACPの推進
- 地域リハビリテーション協力機関の充実
- 終活支援及び在り方の検討
- 介護サービス等の提供体制の充実及び介護保険制度の安定した運営
- 将来を見据えた介護サービス基盤の整備
- 先進的介護「北九州モデル」の推進
- 介護人材が長く安心して働ける環境づくり
- 保険者機能の強化
- 安全・安心に暮らし続けられる環境づくり
- 円滑に入居・住み替えができる情報提供や支援の充実
- おでかけ交通の運行
- 消費者被害防止に向けた取組推進
- 防火安全対策の推進

次期高齢者プラン試案(たたき台)への主な意見

資料2-1

高齢者支援と介護の質の向上推進会議(分野別会議)の主な意見

プラン名称等について

- ・プラン名称の「幸せを感じる」とは何をもって幸せなのか。
- ・プラン名称に「人とのつながり」が見えるようにしていただきたい。
- ・ビジョンの「生涯現役を目指し」というフレーズは、生涯現役を強いることになるのではないか。
- ・「生涯現役」を「認知症の人も主人公であってほしい」といった表現はどうか。
- ・高齢者プラン以外にも各プランごとにスローガンがある、判りづらい。その点の考慮を。

目指そう 活力ある100年

～健康長寿～

- 就労・社会参加
- 健康づくり・介護予防

- 高齢者の自己調整能力(自分でマネジメントできる)の仕組みを。
- 今後の事業の財源をどう考えるのか。持続可能な事業の在り方の検討を。
- 今後、生産年齢人口は減り、それに伴い財源も厳しくなる2040年の状況をもう少し厳しく言うべき。
- 高齢者も働かないといけなくなることへの支援の検討。
- 現実を自覚してもらう中で希望が見える構成を。
- ボランティアや社会貢献に偏って見える。就労関係も見えるよう。
- 高齢者の就労を促すには、ビジネスモデルを変える必要がある。企業側に高齢者の雇用を啓発しても、民間は効率・利益面から若年者と同じ賃金等の体制での雇用は厳しい状況もある。その点の考慮を。
- 約23万人の元気な高齢者に活躍いただくためにも、健康な人や就労関係の取組みが見えるように。
- フレイル予防として高齢者の意識変革が大事と考える。

人情息づく 支えあいのまち

～地域共生社会～

- 見守り合い・支えあいの地域づくり

- 認知症対策

- 「ウェルビーイング」をわかり易く、具体的に記載を。
- 「ソーシャルキャピタル」等、聞きなれない言葉は、理解し易い記載を。
- 「人情息づく～」は、温かさをアピールしたほうがよい。
- 高齢者と子どもたちとの交流の取組みを。
- 高齢者と家族、地域が繋がり支え合う地域共生社会のまちづくりを大事に進めて欲しい。
- 子ども達も含めたつながりの取組みを。
- 介護関係者に対する認知症関係研修の強化と介護人材の確保を。
- 地域の中で認知症の方が参加できる具体的な事例が積み上がっていくと良いと思う。
- 「認知症にやさしいまちづくり」の表現は良いと感じる。

選べる自由が感じられる 多彩なケア

～安全・安心・自己決定～

- 地域での暮らしの相談や在宅支援

- 介護保険

- 本市は医療の提供体制が非常に充実していることをもっと打ち出す方がよい。
- 総合的なリハビリテーションの推進で、北九州市は他都市にはない特徴があるので、そこを打ち出すとよい。
- 終活は幅広いが、「自分事」として取り組まないといけないと思うような情報発信が必要。
- 地域リハは「運動機能低下」だけでなく、日常生活機能等の視点も必要では。
- 介護人材については、非常に重要なテーマだと考える。
- 新たな介護人材も重要だが、今いるケアマネジャーの離職防止・処遇改善も大事なため、積極的な支援を。

介護サービス利用の見込み 及び保険料等について

【介護サービス整備量・確保量の見直し等について】

- ・85歳以上の高齢者が増加しており、介護と医療の複合的なサービスが必要となる。
- ・訪問看護では今後の利用予測が増加になっていることから、看護師の確保も重要な課題となる。
- ・ここ数年の大きな変化として、団塊の世代が70歳を超え、従来の高齢者像とは異なり、元気高齢者が増えているのではないか。

【第9期介護保険事業計画について】

- ・(保険料負担に関連して)低所得者層はサービス料の負担も低く、他にも各種の給付金等で手厚いが、高所得者層はサービス料の負担も重い。そういった現状に留意すべきである。
- ・高所得者層は介護保険料の上昇にどこまで耐えられるだろうかと感じる。
- ・介護・医療サービスは公定価格だが、物価高騰等で厳しさを感じる。今後、様々な面から合理化を進めていくことになると思う。

<計画全体について>

- ・「人情息づく支えあいのまち」というのはすごくいいテーマだが、もう少し支えあう側に立って、介護する人たちがいなければ、ボランティアや外国人等に頼らざるを得なくなる現実がきていることを市民に知らせた方がいいのではないか。
- ・ビジョンやスローガンはそれぞれの計画ごとにあると市民は、どれが何のビジョンなのか判りづらいのではないかと感じた。

<介護(フレイル)予防の啓発>

- ・高齢者自身が自分の健康そのものを自分で調整や管理できるという能力というような自己調整能力を高めるような仕組みがあるとよいと思う。
- ・フレイル予防として高齢者の意識変革が大事と考える。
- ・無関心層を振り向かせるのは以前より課題と思っている。地道ではあるが声掛けや仕掛けが必要である。

<就労や活躍推進>

- ・今後、おそらく予算は確保できなくなると考える。生産年齢人口が減少していき、例えば北九州市の市民を100名で例えたら2040年のころには、医療、福祉、介護、教育分野で働く従事者を除き、産業を支えないといけない人は10人ぐらいで100人分の生活費を稼がないといけない。1人が高生産な仕事をとということになるが、これは可能なのかという話になる。今後、財源確保が厳しくなり、人生100年時代の中では高齢者の方は働かざるをえない状況になると考える。2040年ぐらいの状況説明はもう少し悲観的な方がいいのではないか。一人一人いきいき暮らすことができれば幸せな形をつくれるかもしれないという希望を持てるような構成がよいのではないか。
- ・高齢者がこれから働かないといけないということを前提として、どのような支援策が必要なのか検討していただきたい。
- ・支える側として考えた場合にどういうふうに見えるのかも、これから見せていかないといけない。
- ・高齢者が働くこと自体が介護予防になり、いつまでもいきいきと暮らしていけるといところで大事な取組みと考える。
- ・高齢者の方たちが地域の中で活躍する場に関して、地域貢献をかなり求めているような事業が多いのではないかと感じる。それだけではなく、就労について高齢者の方々に知らせる機会も増やし、様々な働き方があるのだということも見ていただきたい。
- ・高齢者の就労を促すには、ビジネスモデルを変える必要がある。企業側に高齢者の雇用を啓発しても厳しい。民間は利益を出さないといけないが、やはり若い人を雇用した方が効率・利益率がよい。例えば、特区等で高齢者の方の雇用条件（最低賃金等）を緩和できれば、高齢者の雇用も見えてくると考える。そういう政策が出ると良いと考える。
- ・約23万人の元気な高齢者が活躍していくためにも、健康な人や就労関係の取組みが見えるようにしていただきたい。

<計画全般について>

- ・「人情息づく支えあいのまち」というスローガンはすごく良いと考えるが、温かさを少しアピールした方が良いのではないか。
- ・「生涯現役」という言葉で、認知症になったとしても現役でいてほしい、というよりも主人公であってほしいと考える。
- ・高齢者と家族、地域が繋がり支え合う地域共生社会のまちづくり、ここを非常にピックアップして、大事に進めていって欲しい。

<認知症にやさしいまちづくり（北九州市認知症施策推進計画）>

- ・認知症に対応する職員の研修強化や多職種連携の強化がある。県の要請を受け、介護福祉士会や看護協会等も認知症の対応力向上研修を行っているが、介護福祉士会では受講者が少なくなっており、できれば北九州市においても研修に取り組んでいただきたい。
また、介護人材の確保についても目を向けていただきたい。
- ・今から社会を担っていく、小・中・高校生に迷い人搜索模擬訓練に参加してもらうなど、もう少し、子ども達との繋がりが必要と考える。
- ・やさしいまちづくりについて、ソフト面のイメージがあるが、ハード面の意識が大事。市民センターのような身近な施設で取り入れていくことができればセンターに来られた地域の方にも広がりやすいと思う。
- ・市民センターでの市民への啓発が一つの鍵。関係課との連携が必要。
- ・市民センター館長に対する研修や地域の方の人材育成も含めて検討いただきたい。
- ・地域活動の中でリードしていく人材づくりについて、地域の中の人材づくりがとても大切と考える。特に若いとき、子どもの時から「認知症施策」に触れる機会を地域の中での行事に取り入れていくと良い。
- ・地域の中で認知症の方が参加できる具体的な例が積み上がっていくと良いと思う。
- ・認知症の方が少しずつ声を挙げられるようになり、自分もこんなことをしたいという中にまだ社会で活躍したいという意見もある。
- ・認知症の理解についてもう少し踏み込んで啓発すると良いと考える。認知症の認定看護師の活用も検討いただきたい。
- ・認知症の人の働く場を増やすという意味でも、認知症をよりよく理解していただくための企業経営者や管理職が参加できる研修などの取り組みが大変重要だと考える。
- ・「認知症にやさしい」とは、認知症当事者のこともあるかもしれないが、認知症の家族等も含めると、これに当てはまらない人はほぼいないため、「認知症にやさしいまちづくり」の表現は良いと感じる。
- ・認知症の予防というと、認知症にならないようにするという理解になるのではと思うため、この施策の中に備え等の言葉を入れると良いと考える。
- ・認知症サポーター養成講座の講師であるキャラバンメイトの研修に、認知症のご本人を招いた研修などがあれば良い。

<人のつながりが幸せや安心を生む 支えあいの地域づくり>

- ・北九州市の他の障害者の施策や地域の地域福祉の施策との整合性が重要になってくると考える。
- ・地域の方も高齢化が進んでいて、ご協力いただける方もどんどん高齢化しており、非常に頭を痛めながら取り組んでいる現状がある。
- ・多様な主体による居場所づくりを市から補助金をもらいながら行っているが、財源の問題もあり、悩みながらやっている。
- ・「ソーシャルキャピタル」について、分かりやすい説明が必要。
- ・「ウェルビーイングを創出する人材の育成」は、言葉は格好よいが、すごくイメージしにくい言葉と思うため、少し、具体的に落とし込んだ説明が必要。

<尊厳のある自分らしい暮らしを守る権利擁護支援の推進>

- ・「尊厳のある自分らしい暮らしを守る権利擁護支援の推進」は、大変前向きで良いと考える。
成年後見制度自体は国の制度のため、なかなか市の方で自由にできない部分もあると思うが、中核機関を中心に機能強化や啓発により制度を知ってもらい、協力をより深めていくことは、目標としては大変、素晴らしいと考える。
- ・意思決定支援の部分に関しては、しっかりと対応していくというようなことが明記されており、安心感に繋がると考える。

<選べる自由が感じられる多彩なケア>

- ・「介護人材の確保、質の向上」とあるが、人材確保というのは喫緊の課題と考える。
- ・外国人材の活用においては事業所側の経費的負担もあるため、積極的な活用へのサポートを検討いただきたい。また、新たな介護人材の確保も重要だが、今いるケアマネジャーの離職防止や処遇改善についても積極的な支援を行っていただきたい。
- ・医療機関のリハ専門職を地域に派遣する体制づくりが大変驚異的に進んでいると感じている。
- ・一般的に「地域リハビリテーション＝機能訓練、運動器のリハ」というイメージが強すぎると感じる。今回、内部疾患について挙がっているのは良いと思うが、できれば、入退院を繰り返す複雑な生活障害を有する高齢者の割合を図る指標として「認知症や内部疾患等による心身機能が低下している高齢者の割合」を加えることを検討いただきたい。
- ・現在、北九州市の医療資源というのは一定程度の余裕はあるが、これから高齢化がさらに進展し、働き方改革が来年4月から始まると、医療を取り巻く環境が変わってくる。そうすると、今、維持出来ている医療提供体制が確保できるかという問題が現れ、今後は市民の受け皿として、在宅で療養することを選択肢として選ばざるをえなくなってくる。その中で在宅医療を進める上では、ACPを導入し患者中心の医療を提供できるよう構築していきたいと考えている。医師会の中でもまだACPが普及してないため、一般市民の方々へ行政と協力し普及啓発を進めていきたい。
- ・介護人材確保のために派遣会社を利用すると、ICTを進めるにしても財源的にかなり厳しい。人件費が介護事業所の介護報酬の8割を占めるにつれ、労務倒産していく事業所が現れており、次の計画で介護報酬が減額されると北九州市でもかなり閉鎖する事業所が増えてくるのではないかと危惧する。先進的な取組み以前に、もう少し介護保険事業所の体力をきちんと戻していかないと「介護保険あってサービスなし」の危機的な状況になりうることを是非ご理解いただきたい。
- ・「先進的」という言葉と人材養成はセット、つまり先進的なことをこなせる人材を育てる視点を常に持っておかないと、ICTやAIがどんどん進化していく中で、人がそれらを使いこなせないと介護現場では意味がないと考える。
- ・終活について、民間からの参入が進む中で、その状況が掴めてないところもあるため、それらの実態把握は非常によいと考える。

<全体的>

- ・プラン名称の「幸せを感じるまち」は、高齢者の幸せとは何をもって幸せなのか、と感じるが、プランを進めていくことで高齢者が幸せになるというのであれば、この名称でも良いと思う。

<次期高齢者プラン>

- ・「安心して暮らせる北九州のまち」について、北九州市の安心して暮らせる1つのワードとして、医療体制が非常に充実しているところで、北九州の1つの特徴。この点をもっと打ち出すほうがよいと考える。
- ・「地域における相談支援に関するもの」で、「総合的なリハビリテーションの推進」において、北九州市には地域医療の推進センターが設置され、行政にも医科の専門職が入っていることは他市にはない特徴と考えるため、北九州の1つの特徴として打ち出すとよいと考える。
- ・令和4年度北九州介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果で「認知症の認知機能の低下」が令和元年より令和4年はとても改善している。次期計画でも認知症に重点を置くとのことなので、よい施策等は次期事業にも反映していただきたい。
- ・全国の社会福祉法人が1,600団体の調査をしたところ、特養は赤字が62%だった。令和4年は43%で2割程悪化している。この状況をそのままにしておけば危機的な状況になりつつあるという流れになると考える。経営側の自助努力で改善できるのか、あるいは行政の皆様と一緒にタッグを組みながらやっていかなければならないかというのが大きなポイントになると考える。北九州市には、なかなか自助努力が発揮しづらいという企業風土があると感じている。
- ・「認知症対策に関するもの」で、「認知症を、今は関係ない事と思っている人達の予防や相談窓口」とあるが、「財産のことや看取り等、認知症になってしまうといろいろなことが決められなくなる、契約とかができなくなるから今しておかないと、という研修・講義を実施すると参加者が殺到する。終活は幅が広いのでそういう情報をキャッチする所がないと言われる。「北九州市はこういうことをやっており、「自分事」として取り組まないといけないのだ」と思うような情報発信が必要。
『「絶対子どもに迷惑をかけたくない」と言っているのに何もしていない』という人が一番多い。

<第9期介護保険事業計画の見通し>

- ・おむつ給付利用者は、在宅で介護している方で、特に助かっていると聞いている。何とか財源をつくって続けていただきたい。所得の低い方が在宅で介護できるような支援を充実させていただきたい。

<介護サービス整備量・確保量の見通し等について>

- ・85歳以上の方が増えており、介護と医療の複合的なサービスが必要となる。
- ・訪問看護の今後の利用予測が増加になっていることから、看護師をどうやって確保していくかが課題となる。
- ・2040年問題に関連して、「2040年のリハビリテーションの在り方」について、大学の卒業生と勉強会を行った。この問題に関心を持って大学等でも議論が始まっている。
- ・グループホームは家族（介護者）の利用ニーズが高いが、地域差があるのではないかと。北九州市の各区の地域性を踏まえて、バランスの取れた利用ができればご家族のニーズに沿える。
- ・ここ数年の大きな変化として、団塊の世代が70歳を超えたことがある。これは従来の高齢者像とは異なる、元気高齢者が増えているのではないかと。次期計画では、こういった変化が反映されるものと考えている。

<第9期介護保険事業計画について>

- ・保険料の算定は市民が理解しにくい部分であるため、このようにしっかりとバランスを考えながら検討されていることが伝わると良いと思う。一方、高所得の方々は収入があるとは言え、介護保険料の上昇にどこまで耐えられるだろうか、と感じる。
- ・低所得者層は高額介護サービスによる上限に加え、新型コロナや物価高騰に対する給付金等があっても手厚いが、利用料自己負担が3割負担の高所得者層は、そういった恩恵が受けられない中で、負担をしている現状がある。
- ・適正化事業について、ケアプラン点検事業をやっているが、プランを作成するケアマネを応援するという視点も必要ではないか。
- ・サービス提供事業者が介護予防に取り組んだ際、成果の還元（果実）が得られるようになると、介護人材も集まるのではないかと。
- ・介護サービスや医療サービスは決められた価格（公定価格）で行っているが、物価の動きの中でそのバランスが崩れており、厳しさを感じる。今後、様々な面から合理化を進めていくことになると思う。
- ・人材確保・定着策で文書事務の軽減等について、IT機器等の活用等の負担軽減策を導入して規制緩和が進む一方で、専門職能の教育による技能の向上やステップアップ教育に取り組まなければならない。そうしなければ次第に専門職の中での格差が生まれ、それが離職につながってしまう。それを併せてシステム化を考えなければならない。

次期高齢者プランの骨子と主な取組み(案)

ビジョン

高齢者が健康で生涯現役を目指し、自分らしく安心して、人生100年時代を幸福に暮らすことができるまち



資料3

目標	施策の方向性	施策	主な取組み
1 目指そう 活力ある100年 健康長寿	人や社会とつながりを続け、役割をもって活躍できる機会の創出 生涯を通じた健康づくり・介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 生涯現役の充実したライフスタイルを応援 (P47～) 就労やボランティア活動等の社会参加支援 (P48～) 健康寿命延伸を目指した健康づくり・介護予防の促進 (P50～) 地域で主体的・継続的に取り組める仕組みづくり (P51～) 	<ul style="list-style-type: none"> 学びや活躍の場づくりの推進／多様な活動・生涯学習の推進 就労支援／ボランティア活動の促進／社会参加に関する情報提供の強化 オーラルフレイル対策、歯科口腔保健の推進／健康づくり・介護予防の普及啓発／生活習慣病の発症予防等の取組み強化 健康づくり・介護予防活動を担う人材の育成や活動の支援／高齢者の通いの場を活かした健康づくり
2 人情息づく 支えあいのまち 地域共生社会	人のつながりが幸せや安心を生む支えあいの地域づくり 認知症にやさしいまちづくり (北九州市認知症施策推進計画) 尊厳のある自分らしい暮らしを守る権利擁護の推進 (北九州市成年後見利用促進計画) 介護者(ケアラー)のサポート	<ul style="list-style-type: none"> 見守り・支えあいのネットワークづくり (P54) 地域のウェルビーイングを創出する人材の育成 (P55) 多様なつながりが力を生む地域づくり (P56) 孤独・孤立や多様な困難を抱える高齢者等の安心を支援 (P56～) 認知症の理解の増進と共生の推進 (P58～) 保健医療・介護サービス提供体制の整備 (P59～) 認知症の人や介護者への相談・支援 (P61) 認知症の予防 (P62) 成年後見制度の利用推進 (P63～) 高齢者の虐待防止対策の推進 (P67～) 介護者の不安に寄り添う (P68～) 家族介護者の生活支援 (P69) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域全体での見守り支援／ふれあいネットワーク活動 学びや活躍の場づくりの推進(再掲)／ボランティア人材の育成と活動促進 多様な主体による居場所づくり等への支援／地域づくり計画策定の支援 重層的支援体制整備事業の実施／地域包括支援センター等による相談体制の充実(再掲) 認知症サポーター養成講座／認知症にやさしいデザイン／ピアサポート活動支援 認知症サポート医の養成／ものわすれ外来の設置／認知症疾患医療センターの設置 認知症・介護家族コールセンターの運営／介護技法講座の実施 健診受診促進／通いの場への専門職派遣 中核機関「みと」の運営／らいとの運営／地域連携ネットワーク構築と支援強化 対応職員の研修強化／多職種連携強化／介護者の負担軽減の取組強化(再掲) 相談支援体制の充実／認知症カフェの普及啓発・活動支援(再掲) 介護講座の実施／企業等を対象とした介護への理解促進
3 選べる自由が 感じられる 多彩なケア 安全・安心・自己決定	不安を安心へ 介護サービス等の提供体制の充実及び介護保険制度の安定した運営 安全・安心に暮らし続けられる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの機能充実 (P71～) 在宅医療・介護連携の強化 (P72～) 地域リハビリテーションの充実 (P74～) 一人暮らしの高齢者の安心を支援 (P76～) 実情に応じた介護サービス基盤の整備 (P78) 先進的介護等による生産性向上及び介護人材確保 (P79～) 介護サービスの質の確保及び適正な運営 (P80) 保険者機能の強化 (P81) 在宅生活を支援するサービスの充実 (P81～) 暮らしやすい多様な住まいづくりを応援 (P83～) 外出したくなる環境づくり (P84～) 安全・安心な生活を守る (P85～) 	<ul style="list-style-type: none"> 相談体制の充実／地域ケア会議の開催 在宅医療(緩和ケア・看取り含む)の普及・促進／ACPの推進 地域リハビリテーション協力機関の充実／支援拠点の機能強化 終活支援の強化／重層的支援体制整備事業の実施(再掲) 介護保険(施設・居住系)サービスの提供／施設等への円滑な入所促進 先進的介護「北九州モデル」推進／介護サービス事業者への研修 介護サービス従事者への研修／データに基づいた科学的介護の推進 PDCAサイクルを活用した保険者機能の強化／自立支援等事業の実施 在宅を支える専門相談支援拠点／介護予防・生活支援サービスの提供体制の確保 住宅セーフティ機能の充実／民間による高齢者向けの住宅の供給と促進 おでかけ交通実施／NPO・ボランティア・地域主体の生活支援や社会参加、健康づくり 消費者被害防止の取組推進／防災・感染症対策／防火安全対策の推進